

ヨシタケシンスケ
初の大規模展覧会

ヨシタケシンスケ展 かもしれない

会期：2022年7月15日（金）－8月28日（日）

月曜休館（ただし7月18日は開館、翌19日は休館）

開館時間：10:00-18:00（入館は17:30まで）

会場：展示室2・3・4

料金：一般1,000（900）円、大高700（600）円、中小400（300）円

※（）内は20名以上の団体料金

主催：市立伊丹ミュージアム〔伊丹ミュージアム運営共同体 / 伊丹市〕、
朝日新聞社、白泉社

共催：伊丹市教育委員会

協力：アリス館、PHP 研究所、ブロンズ新社、ポプラ社

絵本作家としてのデビュー作『りんごかもしれない』（2013年）以降、子どもから大人まで大ブームを巻き起こしているヨシタケシンスケ。頭のなかに広がる果てしない妄想やアイデア、クスッと笑える人のクセやしぐさ、世界の真理をつくようなものの見方を細いペン先で描き続け、多くの人々をひきつけています。

ヨシタケさんは絵本を出版する以前から、イラストレーター、造形作家として活躍してきました。初の大規模個展となる本展では、作家の発想の源である小さなスケッチや絵本原画、本展のためにヨシタケさんが考案した立体物や愛蔵のコレクションなど約400点以上を展示し、作家の「頭のなか」をのぞいてみます。

発想の豊かさに支えられたヨシタケさんの「かもしれない」展示空間をご体感いただけます。

● 展覧会担当

岡本 梓 / 学芸員（主査） okamoto@itami-im.jp

● 広報連絡先

市立伊丹ミュージアム事業グループ

gakugei@itami-im.jp / 072-772-7447(tel) / 072-781-9090(fax)

● 関連イベント

詳細は市立伊丹ミュージアム HP (<https://itami-im.jp>) にてお知らせします。

● ヨシタケシンスケ展かもしれない 公式 HP <https://yoshitake-ten.exhibit.jp>



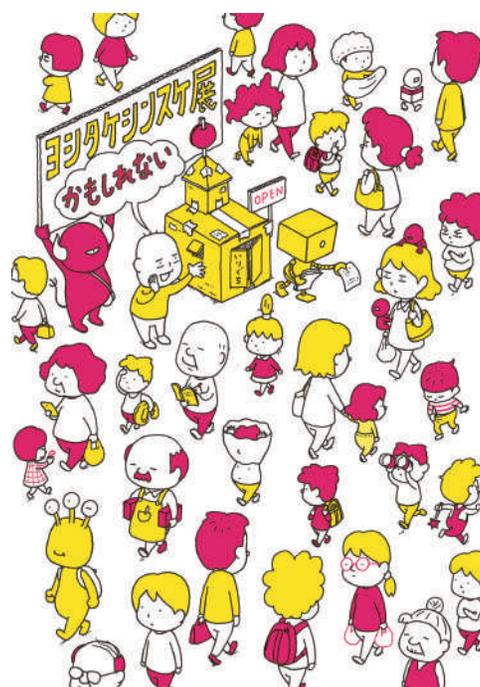
1

撮影 / 黒澤義教



2

「ヨシタケシンスケ展かもしれない」のイメージ



3

展覧会メインビジュアル

画像は全て ©Shinsuke Yoshitake

- ヨシタケさんが絵本作家デビュー以前から小さな手帳のなかに描きためてきた1万枚以上の膨大なスケッチのなかから約2,000枚を複製し、一挙に公開。

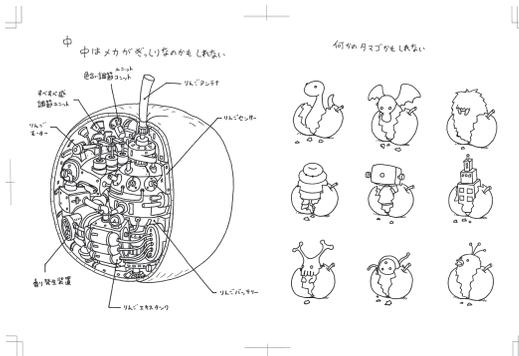
愛用の手帳（『あんなにあんなに』スケッチ）
撮影：野澤亘伸



- デビュー作『りんごかもしれない』や『つままないつままない』『なつみはなんにでもなれる』など約20作の人気絵本から、原画や構想段階のアイデアスケッチなどを多数紹介。



4 『りんごかもしれない』
ブロンズ新社 2013年



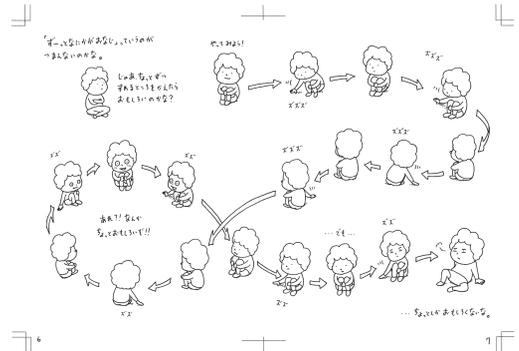
5 『りんごかもしれない』原画



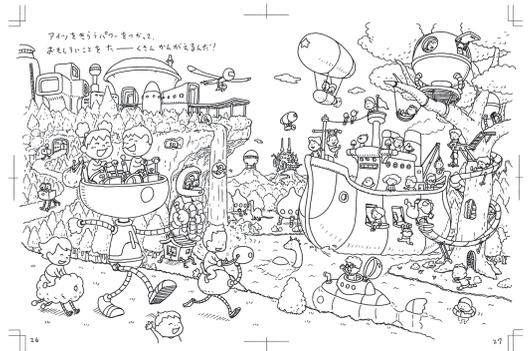
6 『なつみはなんにでもなれる』
PHP研究所 2016年



7 『つままないつままない』
白泉社 2017年



8 『つままないつままない』原画



9 『ころべばいいのに』原画

- 絵本を出版する以前からイラストレーターや造形作家として活躍してきたヨシタケさん。学生時代の立体作品やアトリエに保管される貴重な私物コレクションからインスピレーションの源を探ります。

左：カブリモノシリーズ《ACcess100》 撮影：三橋純
右：〈ぶくぶく観音〉 撮影：加藤新作



10



11

no.1~11の広報用画像を掲載希望の方は別紙にて申請してください。

画像は全て ©Shinsuke Yoshitake

